

## 呼吸器外科

呼吸器外科専門医5名、外科専門医2名、専攻医1名で構成されるチーム。呼吸器外科専門医のもと、質の高い胸腔鏡手術、拡大手術、高齢者手術を施行している。2018年に安全かつ低侵襲で質の高い外科治療を目指しロボット支援手術を導入した。2020年には3～4cmの手術創でアプローチする単孔式胸腔鏡手術（uni-port VATS）を導入し、より低侵襲な胸腔鏡手術を実践している。肺がんを含めた年間手術総数は毎年400～450例にのぼる。症例数が多く、麻酔科医、看護師、呼吸理学療法士、栄養士などのコメディカルも呼吸器外科の周術期管理に精通しており、術後合併症を最低限に抑えられている。日本人の高齢化に伴い、糖尿病、脳梗塞、心筋梗塞などの合併症を有する肺がん患者さんが増えている現状をふまえ、当科では循環器科、脳卒中科、内分泌代謝科、リハビリ科など他の診療科とも協力し術後合併症予防を図っている。

当院は呼吸器外科医、呼吸器内科医、放射線治療医などのがん専門医が多数在籍しており、患者さんごとに最適な治療法を検討している。I、IIA期の患者さんには手術を第一選択とし胸腔鏡手術、ロボット支援手術を施行している。I期の患者さんのなかでもCT、PET等の画像所見で非浸潤性小型肺がん（早期肺がん）と考えられる場合には、根治性を担保しつつ肺機能を温存する縮小手術を実施している。II期以上の患者さんには手術検体で調べたバイオマーカーに基づく術後補助療法を提案している。胸壁浸潤肺がんや隣接臓器浸潤肺がん、縦隔リンパ節転移肺がんなどのIIB～III期の局所進行肺がんに対しては薬物療法（抗がん剤、免疫チェックポイント阻害剤）、放射線療法、外科治療を組み合わせた集学的治療を行い治療成績のさらなる向上を目指している。また当科は気管支鏡治療（レーザー焼灼術、ステント留置術、バルーン拡張術等）も数多く実施しており、腫瘍による気道狭窄がみられる患者さんには気管支鏡治療により狭窄を解除し、全身状態の改善を得たのちに根治術を行っている。

また当科は肺がんの他に、肺感染症、縦隔腫瘍、膿胸、気胸、胸壁腫瘍、胸膜中皮腫など様々な胸部疾患に迅速に対応できる体制を整えている。

「自分や自分の家族が病気になったときに受けたい医療の実践」をモットーに、今後も最高水準の医療を提供できるようスタッフ一同さらなる研鑽を積んでいく。

（棚橋 雅幸）

・医師数 8名 ・専攻医 1名  
・初期研修医 1名

（2025年4月現在）

（その他の貴科での統計）

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
肺疾患	267	236	277	284	289
肺悪性腫瘍	183	159	191	198	200
原発性肺癌	165	138	170	169	168
転移性肺癌	14	18	20	24	29
その他の悪性腫瘍	4	3	1	5	3
肺良性腫瘍	1	4	9	11	4
炎症性肺疾患	27	13	18	26	37
自然気胸	56	60	59	49	48
胸膜疾患	13	18	32	41	30
中皮腫	1	4	2	4	1
膿胸、その他	12	14	30	37	29
縦隔疾患	7	20	27	17	20
胸腺腫、悪性腫瘍	4	13	8	11	6
囊腫、その他	3	7	19	6	14
胸壁、横隔膜疾患	8	10	3	5	5
気管、気管支	7	5	19	0	5
外傷	3	1	4	1	2
経気管支鏡治療	9	7	15	20	5
その他	38	51	28	71	56
総 計	352	348	405	439	412

【入院患者】 (単位：人)

	2020	2021	2022	2023	2024
新 入 院	802	722	772	765	677
退 院	812	714	776	760	679
延べ人数	7,867	7,452	8,175	7,949	7,729
一日平均	21.6	20.4	22.4	21.7	21.2

【外来患者】 (単位：人)

	2020	2021	2022	2023	2024
新 来	192	220	229	255	167
再 来	6,114	6,018	6,054	6,168	5,827
延べ人数	6,306	6,238	6,283	6,423	5,994
一日平均	21.5	21.3	21.4	21.9	20.5

【平均在院日数】 (単位：日)

年 度	2020	2021	2022	2023	2024
日 数	8.7	9.4	9.6	9.4	10.5